

MY IMPRESSION

— 感想 —

安積高校

2年 高橋 愛奈

あいでみが設立した2012年に比べ、日中関係は良好な状態にあると思います。そして一概にとは言えませんが、中国を悪く言う人も減ったような気がします。しかし、だからあいでみはもう不要だというのは違うとも思います。今とあいでみ設立当時ではあいでみが存在する意義が変わったのだと感じながら活動してきました。そういった状況の中で、改めて自分たちの理想と、確実に実現できる範囲、またその二つの範囲を最大限に広く近く保てるのはどこなのか、こういったことを考えるのが1番難しかったです。

私は、8期のあいでみにリーダーとして参加しました。自分と向き合うのが一番苦しく、毎日悩みました。他人にせよ自分にせよ、人と本気で向き合うのは本当に難しいことだと実感しました。

これらのことはあいでみに参加しなければ考えもしなかったことだと思います。色々な面で、見る世界が変わるきっかけになりました。



HOW TO PRIORITIZE

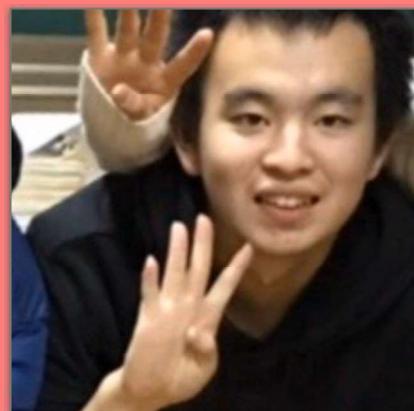
— 優先順位のつけ方 —

学法福島高校

2年 鈴木 淳志

私が今まで8期の夏交流と冬交流を通して得られたことは沢山ありますが、その中でも特に重要性を感じたことは、ディスカッションを行う上での優先順位をつけることや進め方等です。学校ではディスカッションの機会はとても少なく、ディスカッションと言ってもわからぬい部分がたくさんありました。ですが、今回の活動を通して知る事ができたと思います。夏交流での初めのうちは戸惑いしかありませんでしたが、みんなの支えがあって色々なことが肯定的に出来るようになりました。その一方、冬交流では進め方が自分の心の中で決まっておらず、抜けていたな、と感じた部分がいろいろとありました。またその結果、自分が思っていた通りに進められなかった事が多くありました。その要因となったのは、様々な点での優先順位のつけ方ではないのかと個人分析しました。

今回の経験をもとに、他のディスカッション等の活動ではこれらの反省を生かしてより良いものにできるようにしたいです。



MISUNDERSTANDING

— 中国への誤解 —

福島南高校

1年 半澤 はるの

私は、日本人はあまり中国に対していいイメージを持つていないという人が多いけれど、中国人は日本のことなどをどう思っているのかということが気になっていました。渡航1日目の自己紹介の時に、中国メンバーが日本のアニメが好きだと言っていて、他の国の人々に自分の国の文化を認めてもらえることはこんなに嬉しいことなんだと感じられました。ディスカッションでは少し大変な場面もありましたが、国や言語が違ってもお互い成し遂げたいことが同じだとここまでまとまることができるんだ、と感動しました。中国メンバーはとても親切で素敵な人たちでした。中国人にはこんな素敵な人たちだったので、日本人が誤解をしているままではもったいないと私は思います。交流ができたのは4日間だけでしたが、短い時間の中でも中国メンバーといい関係を築けたと思います。また、お互いの国に対する思いの違いというものをとても深く感じました。

今後は、自分が実際に訪れて見てきた中国の印象を周りの人たちに伝えていきたいと考えます。



TO TELL MY OPINION

— 意見を伝える大切さ —

**あさか開成高校
2年 白石 萌**

私には、普段の生活の中で自分の意見を相手に伝えず
にいることが多々ありました。自分が周りからどう見ら
れているのか気にしてばかりで、他の人の意見に同調す
るばかりでした。

しかし、渡航前の話し合いや中国でのディスカッションを通じて、自分から意見を伝えないと何を考えている
のか分かってもらうのは難しいこと、自分が意見を持つ
ていないのではないかと勘違いされてしまうということに気づきました。また、特にディスカッションを通して、
人がそれぞれ異なる価値観を持っている故に互い
を理解し合うことが大切だということにも気付くことが
できました。

学べたことを活かしながら、これから的生活では相手
の意見を尊重しつつ、自分の意志を積極的に伝えられる
ように意識していきたいと思います。

今回の渡航で多くの学びを得ることができ、本当に良
い経験になったと感じています。



CHANGING MY IMAGE

— 中国の印象の変化 —

尚志高校

3年 渡邊 文乃

最初、私の中国に対する印象は「怖い」でした。治安や食においても、あまりいい印象がありませんでした。しかし実際に渡航して自分の目で中国の事実を確かめてみたところ、全く悪印象で感じていた点はありませんでした。食事は日本にいる時と同じようにでき、味を楽しめました。治安においても、過度に危険だとは感じませんでした。

中国の学生とはテーマに対する意見の交換や協力してのパワーポイント資料作成、プレゼンテーションなどを行いました。その際、中国の学生はみんなレベルが高いなと感じられました。それぞれ積極的に発言していて、プレゼンテーションでの発表の仕方や表現の仕方、ジェスチャーの使い方に感心させられました。ディスカッションでは、中国のメンバーに助けられる面がたくさんありました。最終的に発表が上手くいって良かったと思います。

この経験を活かし、プレゼン能力や積極性をみがいていきたいと思います。



COMMUNICATION

— 中国メンバーとの会話 —

**日大東北高校
1年 成田 結衣**

私はあいでみの活動に参加するまで、中国に対する印象をあまり持っていました。しかし、この交流を通して中国や中国人に対しての印象が変わりました。中国人というと、自己中でせっかちだというイメージを私は持っていました。しかし実際は違いました。私は英語が苦手で、話す時に時間がかかってしまったのですが、中国メンバーは私が伝えたいことを最後まで聞いて理解しようしてくれました。また、班ごとのディスカッションでは、中国メンバーと話し合いしつつパワー・ポイントで資料を作成し、プレゼンテーション発表でも原稿などでたくさん助けてもらいました。しかし、中国メンバーとのあまり話し合いが進んでいない点までパワー・ポイントで作成されてしまっていたり、日本についてのことがあまり資料化されていなかったりという問題もありました。ですが班の日本メンバーと話し合って意見をまとめ、中国メンバーに伝えて無事要望点がまとまった発表に繋げられたので良かったと思います。

今後は、自分が見たものを身近から発信していき、このような活動にどんどん参加していきたいです。



THINGS I SURPRISED

— 感動のサプライズ —

あさか開成高校
1年 安藤 帆風



私はインフルエンザにかかっていて、渡航できませんでした。渡航できないことに落胆していた中、冬交流で渡航していたメンバーが私に向けてビデオレターを送ってくれました。中国メンバーまで日本語でメッセージを送ってくれていて、驚き、とても感動しました。自分も交流の仲間に入れてもらえたように感じられて、本当に嬉しかったです。

今回の冬交流で私は、中国メンバーと直接交流することはできませんでしたが、ビデオレターなどを通し、以前よりも中国を近くに感じられるようになりました。直接会えなくても心の距離が縮まったと思えた今回の経験は、この活動について伝えるときに活かすことができると考えています。今後様々な活動の中で、今自分にできることは何か考え、行動していきたいです。

BE ACTIVE

— 積極的に行動する —

福島南高校

1年 三浦 彩香

今回あいでみに参加して、良かった点も反省点もたくさんありました。良かった点は、私が企業協賛に回った際、沢山の企業様にご協力頂けたことです。企業様に渡す資料を作成したり、お店に回ったりと大変でしたが、最終的には目標金額を無事達成することが出来たので本当に良かったです。反省点は、渡航前の話し合いや目標決めなどで積極的に自分の意見を出せなかったことです。積極的に参加しよう、と思っていてもなかなか行動に移せませんでした。また、ディスカッションの時の下調べが不十分だったり、ディスカッションの際も班のメンバーに頼りきりになってしまったりと積極的にできませんでした。

私はディスカッションを通して、常に疑問を持つこと、細かいところまで調べること、積極性を持つことの重要性を学ぶことが出来ました。次回参加する際は積極的に行動できるようにしたいです。



MY HUMANITY

— 人間性 —

福島成蹊高校

2年 廣田 夏楠

あいでみの活動は私を大きく成長させてくれました。

私は8期メンバーとして夏から活動しています。夏交流ではコアメンとの温度差を感じたり、何をしていいのか分からなくなってしまったり、と目標を失い、自分の中で強い悔しさが残りました。

冬交流に挑む上で新メンバーが入り、私は気合を入れて準備を始めました。企業協賛やクラウドファンディングを通して、困難さを知ったり、感謝の気持ちが生まれたり、活動への自分の意識を高めることができました。

冬交流ではメンバーとも沢山話してコミュニティを築くことができ、中国メンバーとのディスカッションもとても良いものとなりました。

あいでみの活動は、私の人間性を高めてくれ、他では絶対にできないような経験をさせてくれました。この活動は私がこれから生きていく上でも、大きな自信であり、誇りでもあります。共に活動した8期メンバー、メンター方、活動に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。



TO KEEP THINKING

— 考え続ける —

福島成蹊高校
2年 永井 紅李

参加当初から、わたしは活動に対して受け身の姿勢をとっていました。後から入った自分よりも流れを理解しているメンバーに任せればいい、と、ミーティングに参加しても特に自分の意見を持つことはありませんでした。行動に責任を持てなかったことがわたしの大きな反省点です。しかし、あいでみで学べたことがあります。1つは、多方面から物事を捉えるということです。1つの言葉でも人によって異なった意味で使っていたなど考える立場や捉え方を変えることで初めて気付けたことが多くありました。もう1つは、根気強く考え続けるということです。ミーティングの際、頭が沸騰しそうなほど考えても突破口が見つからないことが何度もありました。その度に、投げ出すことなくメンバー全員で悩むことで、より考えを深めて内容を整理していきました。

これらの反省や後悔を忘れず、学んだことを糧としてこれから日々に生かしていきたいです。そして、あいでみがこれから周囲に与えることができる影響とは何か考えていきたいです。



THINGS TO USE EVERYTHING

— 全てに活かせること —

福島南高校

1年 大橋 萌夏

私があいでみに参加した最初の頃はなかなか意見が言えず、ただ聞いているだけでした。しかし、あいでみを通して物事を深く考えるということを学べました。中国渡航中のディスカッションでは、英語でコミュニケーションを取るのがとても難しく、なかなか中国メンバーと話すことが出来ませんでした。また、自分の意見を持っていても伝わらなかったらどうしようという不安から、積極的に発言することができずにいました。ディスカッションが進んでいくと中国メンバーから話しかけてくれて、だんだん自分の意見をはっきりと伝えることができるようになりました。そこから積極的に話すことが出来ました。これはあいでみに参加しなかったら経験できなかっただことだと思います。渡航の準備など大変なことがたくさんありましたが、普段意識しないことを考えたり、自分たちで考えて行動したりというあいでみで経験したことは全てこれから私の生活に役に立つ、活かせることだと思います。

私を変えてくれたあいでみの活動をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。



SKILL TO TELL SOMETHING

— 伝える技術 —

福島南高校
1年 大内 倭子

私は夏交流からあいでみに参加していました。今回の冬交流では、夏交流で出来なかったことを出来るようしようと思い参加しました。夏交流では全く動くことが出来ずにいましたが、冬交流では仕事を自らやる意思を示して行動できました。また、その仕事を最後までやりきることが出来ました。

成長できた点がある反面、反省点もあります。それは文章能力の無さです。何をするにも文章を作つて、言葉で伝えなくてはいけません。しかし私はあまり文章を作るのが得意ではないため、相手に言葉で伝える上で困ったことが何度かありました。また、私は広告班としてSNSに文を書いて載せたのですが、あまり工夫して書けず、悔いが残っています。日々、誰かに何かを伝えるためにはどのような文を書けばいいか考えさせられました。



BACK TO THE BASICS

— 初心に戻る —

福島成蹊高校

2年 梅津 晴翔

最初は、あまりこういう活動の存在を知らなかったので、活動として無事に渡航できるのかと不安で仕方ありませんでした。ですが日本メンバーが決まり、お互い話し合っていくことで不安が少しずつ無くなっていました。大丈夫だという自信に変わっていきました。その自信に変わっていくきっかけとなったのが企業協賛です。私は企業協賛ということを今まで1回もした事はありませんでした。企業協賛という活動の中、相手が大人ということで、普段学校などで接している同級生とはまた違った接し方について学ぶことができました。ここから学べたことは将来必ず大切に感じられる事だと思っています。

今回のあいでみ冬交流に参加して、自分自身が初心に帰れたと思います。現在、世界はグローバル化に向かって歩み始めています。その中で英語は、言語の壁をなくす上でとても大切になってくるものだということを改めて感じられました。この体験を、これから英語をより勉強していこう、というはずみにしていきたいです。あいでみで体験できた貴重な経験を忘れず、からの生活に活かしていきたいです。



LEARN LESSON FROM AIDEMI

— 次に繋げる反省 —

福島成蹊高校

2年 大河内 飛向

あいでみに入った当初、中国に対しての印象はあまり良い印象ではありませんでした。しかし、渡航を通して自分の中国に対するイメージは事実と異なっていたのだということに気づきました。特にディスカッションをした中で感じられたことは、中国の人たちの人柄の良さです。僕たちと交流をした学生達は皆真面目で、とても親切に接してくれました。それは交流をしたことで自分がはじめて知ることができた情報であり、こういった点をうまく日本人に伝えることができれば、日中の友好に繋がる糸口になるのではないかと考えました。

もう一つ感じたことは、自分の英語力の低さです。中国のメンバーは英語が話せるのが当たり前であったため、自分は今の勉強を見直さなければならないと思いました。また、話し合いの中で自分は積極的に活動したいと考えていましたが、今回の渡航では十分な積極性が足りていなかったように思えます。

この渡航を通して自分はいくつもの反省点を見つけることができたので、今後の活動では、今回の冬交流の反省を生かして取り組みたいと思います。



TO KNOW MYSELF

—自分を知る—

福島南高校
1年 鬼地 菜々美

私は夏交流から参加していました。今回の冬交流では夏交流の反省を生かして臨んだつもりでしたが、逆に夏交流でできていたことが冬交流では出来ていなかったという部分が多いように思われました。

しかし、一年間を通して大きく成長できた点、学べた点があります。それは、自分の長所や短所を知り、それらを伸ばしたり直したりすることができた点です。私はあいでみに入ってから、自分はディスカッションの様な場で積極的に発言したり、一歩引いて全体を見てから何かを指摘するできたりするのだという長所があることに新たに気づけました。交流中でなくても、あいでみの活動をする上ではたくさんのディスカッションがあり、自分の長所をより伸ばせたと思います。

交流中は周りが見えていないことが短所でした。しかし冬交流の後半から意識的に周りを見るように心がけようとすることができました。

あいでみを通して学んだこと、感じたことを忘れずに、この先も頑張っていきたいと思います。



ALWAYS ASK WHY

— 常に疑問を持つ —

安積高校

2年 高坂 宥希

私は『あいでみ』に1年間参加して2つの事を学ぶことができました。

1つ目は物事を立体的に捉える事です。夏交流では、同じ「ふくしま」でも誰に焦点を当てるかで伝えるべき内容が変わること、冬渡航では「ゴミの分別」という端的な言葉が段階的で立体的な意味を持っていると分かりました。そして、物事はさまざまな角度からアプローチできるという事を学びました。

2つ目は常に疑問を持つ事です。私は『あいでみ』の目標と自身の行動にギャップがあったと感じます。自分の行動に対して常に疑問を持つ事で、明確に目標と現状との距離を測り、目標へより近づけたのではないかと反省から考えました。また「フォアキャスティング」と「バックキャスティング」という2つの目標へのアプローチの方法も今回学ぶことができました。

『あいでみ』で私は多くの失敗をしてきましたが、反省し、改善することで大きく成長できました。学んだ事を今後の生活に必ず生かしていきます。応援してくださった方々本当にありがとうございました。



EVERYTHING IS UP TO ME

—自分次第—

福島高校
1年 七宮 百香

最初はわからないことも多く、あまり積極的に活動できませんでした。しかし、ほかのメンバーの真剣に取り組む姿勢や、親切なサポートがあり、だんだんとあいでのメンバーである自覚が湧いてきました。海外に行くのも、外国人と話すのも初めてで、始めは不安も大きかったです。ディスカッション中もやはり言語の壁は大きく、初めの内はどうしても英語などで喋れる人に頼りきりになってしまいました。ですが、そこに悔しさを感じていた私に声をかけてくれた日本メンバーがいました。その人の協力もあり、だんだん自分から中国メンバーへと積極的に話しかけていけるようになりました。

今回の渡航で大きく感じたことは、暮らしてきた環境が違っても同じ人間であることに変わりはなく、言語の壁も決して低くはないものだけれど自分次第だ、ということです。私は中国の学生と話すのが「不安」から「楽しい」にいつの間にか変わっていったことに自分でも驚きました。そしてその変化を嬉しく思いました。今回の活動で得た多くのことを胸に留めて、これからも色々な活動で積極的に動いていきたいと思いました。



TO KNOW OUR DIFFERENCE

— 違いを知る —

福島高校

1年 丹野 千秋

今回の渡航が私にとって初めての海外体験でした。初めは日本との文化の様々な違いに戸惑うことも多かったですが、その”違いを知る”ということが面白く、有意義なものだったと感じています。言語の壁につまづくこともありました。特にディスカッションでは悩むことが多かったです。しかし、そこに苦労しながらもお互いの理解を深め合うことができたのが良かったと思います。自分で改善するべきだと改めて感じた点があります。それは、あまり積極的に中国メンバーに話しかけられなかつたことです。相手からの印象を気にしすぎる自分の臆病さと、英語で上手く話しかけられなさそうだから、などの理由をつけて逃げてしまう思考のクセが自分の中にはあったと思います。これは他人とコミュニケーションを取る上で大きな課題だと思うので、意識して直していくべきだと思っています。

今回の体験で感じたことは、すべてが私にとって有意義かつ貴重なものでした。この体験と反省点を忘れずに自分らしくまた他の活動にも取り組んでいければと思います。



MY GROW

— 1年間の成長 —

福島成蹊高校

2年 仲島 芽衣



私は夏交流から参加していました。夏交流ではなかなか積極的に行動できず、悔いが残る結果となっていました。ですが、冬交流では自分から行動出来た面が多くなり、自分の成長を感じられてよかったです。私はあいでみの活動を通してメンバーの尊敬できる所をたくさん間近で見てきました。その度に自分には何が出来るんだろう、何が得意なんだろうと考えさせられる日々でした。今もなかなか答えは見つからず、悩むばかりです。自分なりに明確な答えを出せるようにする一歩として、自分で見たメンバーの良いところを真似して行動していきたいです。

あいでみに参加したこと、日中交流で考えたことはもちろん、普段あまり考えていなかった自分自身のことについても考えるという貴重な経験ができました。あいでみに参加して本当によかったです。

REFLECTION

— 客観的に振り返る —

福島成蹊高校

2年 橘内 愛未

私はあいでみ冬交流を通して様々なことを感じ、学びました。そこで特に大きかったことは、あいでみの活動自体について深く振り返ることができたことです。小さな活動としての日中友好はいくらでも出来るのだと気づき、私たちはこういった活動を通して社会や日本という国を見つめ直していくべきだと考えました。

あいでみは私という個人を様々な点で豊かにしてくれた天才です。

渡航中は自分の中で反省点しか浮かばなかったのですが、よくよく考えてみるとその気付きができただけでも決して無駄な渡航ではなかったと思います。

この交流で感じたことを忘れずに日々の生活に生かしていきたいと思います。



JUST A STEPPING STONE

— これからについて —

福島高校
1年 立花 恵央



あいでみを通して言葉では語り尽くせないほどたくさんのことを学びました。日中関係の相互的な理解の方法はもちろんのこと、チームビルディングやロジカルシンキング、言語を越えたコミュニケーションなど普段の生活では磨くことが難しいスキルをどうしたら身につけることができるのか、どうすれば意識して行動の段階まで持っていくことができるのか、そういったことをひたすら考えた5日間でした。結果的に、多くのスキルを身につけることができ、実り多い渡航にすることができました。このような成長ができたのは、あいでみに携わってくださっている全ての方のおかげです。本当にありがとうございました。

しかしこまだ通過点に過ぎません。これからどうやって世の中に還元していくのか、しっかり考えて実行し、あいでみでの中国についての理解をたくさんの方に広めていきたいです。



THANK YOU FOR YOUR DONATION

— 支援してくださった皆様へ —

今年度のあいでみの活動に関する様々なご協力・ご支援誠にありがとうございました。
これからもあいでみを暖かく見守ってくださるよう何卒よろしくお願ひいたします。

以下、企業協賛にご協力いただいた方々を紹介します。なお、クラウドファンディングで支援してくださった方々の名前は個人名のため、紹介を省略させていただきます。

- Di 様
- eve 様
- aube 様
- apartment 様
- CANDY-DO 様
- LAPiS LAZULi 様
- undiscovered 様
- hair salon erfolng 様
- espanyol EL TOROS 様
- アビ 様
- 味わい 様
- 珍満 様
- 笑夢 様
- 陽水風 様
- FUNS 様
- かねと 様
- 五福 様
- 蔵ひろ 様
- 日の丸亭 様
- やきとん 様
- 白い部屋 様
- 珈琲の街 様
- サガミ商店 様
- 松北園茶舗 様
- 鈴木神佛具店 様
- (株)日進建設 様
- (有)渡辺新聞店 様
- 松浦建工所(株) 様
- 立ち飲みかかと 様
- (株)ジーニアス 様
- 国見ブロック(有) 様
- キッチンカロリー 様
- 平成八百屋世町店 様
- (有)ショッピングセンターほづみ 様
- ホンダ・プロジェクト(株) 様
- (株)クリエートワカマツヤ 様
- (株)酒井東栄コーポレーション 様

CONCLUSION —おわりに—

私たちあいでみ8期は、この夏と冬の交流を通して中国の伝統や文化に触れ、中国の高校生と交流を重ねてきました。この活動は私達にとって、新鮮な体験であり、今後の活動に繋がる良い経験でした。この報告書には私達がその活動で学んだ多くの事が記されているため、皆様には是非全てのページをご覧いただき、私達の活動を深く知っていただければ幸いです。このあいでみも今年度で8期となります、今期のメンバーでこの活動を行えたことに大変大きな喜びを感じています。また更に、少しでもこの活動が多くの人々に伝わることを願っております。

最後になりますが、この活動にご支援いただいた多くの方々に感謝し、終わりの言葉とさせていただきます。

